

福島県尾瀬地域におけるコウモリ類(2021年・2022年調査結果)

岩崎雄輔¹⁾・高橋 修²⁾・佐藤洋司³⁾

1) 一般社団法人湯本森・里研究所・2) 宮城野野生動物研究会・3) 阿武隈野生動物資料情報室

はじめに

福島県尾瀬地域におけるコウモリ相を明らかにすることを目的に行った。特に、コヤマコウモリ (*Nyctalus furvus*) の再確認と福島県未確認種であるオヒキコウモリ (*Tadarida insignis*)、ノレンコウモリ (*Myotis bombinus*) の確認を目的とした。

調査地および調査日

福島県尾瀬地域の檜枝岐村帝釈山登山口、尾瀬沼湖畔、長英新道、御池、広沢林道、沼山峠および南会津町田代山登山口の7地点において、2021年には8月2日～9月8日に計4晩、2022年には6月17日～9月11日に計6晩調査を行った(表1、図1)。

表1. 調査地点と調査日

	調査地点	メッシュコード	調査日
①	帝釈山登山口	5539-3356	2021/8/2～3
②	尾瀬沼湖畔	5539-3205	2021/8/27～28, 2022/8/16～18
③	長英新道	5539-3215	2022/8/16～17
④	御池	5539-3274	2022/8/15～16
⑤	広沢林道	5539-4202, 5539-3291	2021/8/28～29, 2021/9/7～8, 2022/6/17～18
⑥	沼山峠	5539-3236	2022/8/6～7
⑦	田代山登山口	5539-3369	2022/9/10～11

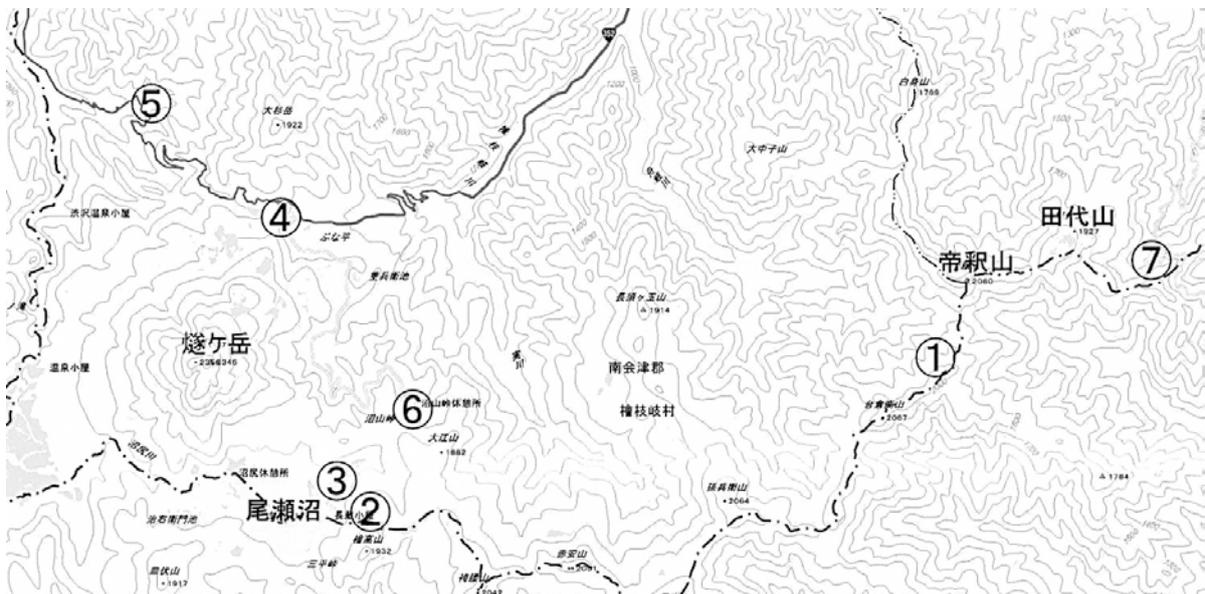


図1. 調査地点位置図

調査方法

かすみ網とハーブトラップ（図2）を用いて捕獲調査を行った。また、尾瀬沼ビジターセンターと尾瀬沼湖畔の山小屋で聞き取り調査を行った。

結果

今回、確認されたコウモリは、キクガシラコウモリ (*Rhinolophus ferrumequinum*)、クビワコウモリ (*Eptesicus japonensis*)、テングコウモリ (*Murina hilgendorfi*)、コテングコウモリ (*Murina ussuriensis*)、ヒメホオヒゲコウモリ (*Myotis ikonnikovi*)、モリアブラコウモリ (*Pipistrellus endoi*)、二ホンウサギコウモリ (*Plecotus sacrimontis*)、ヒナコウモリ (*Vespertilio sinensis*) であり、捕獲調査34個体、死体拾得15個体合わせて2科7属8種計49個体であった（表2）。コヤマコウモリの再確認と福島県未確認種であるオヒキコウモリ、ノレンコウモリの確認はできなかった。捕獲調査で確認した34個体のうち標本としたのは、モリアブラコウモリオス1個体のみで、他はすべて種の判別と計測の後、放獣した。

調査地点別の結果は、帝釈山登山口では、モリアブラコウモリ、二ホンウサギコウモリ、ヒナコウモリ各1個体、計3個体を確認した。

尾瀬沼湖畔では、キクガシラコウモリ1個体、テングコウモリ1個体、コテングコウモリ2個体、ヒメホオヒゲコウモリ3個体、ヒナコウモリ2個体、計9個体を確認した。キクガシラコウモリは雌雄確認前に逃亡したため性別不明とした。また聞き取り調査において、山小屋の職員から戸袋に閉じ込められたヒナコウモリ14死亡個体の情報が得られた（図3a, b）。このヒナコウモリは腐敗が進んでいたため雌雄の判別が難しく、性別不明とした。

長英新道では、クビワコウモリ1個体を確認した。

御池では、コテングコウモリ2個体、モリアブラコウモリ1個体、二ホンウサギコウモリ1個体、計4個体を確認した。さらに御池田代の木道上において、モリアブラコウモリ1個体が外傷がある状態で発見された。

広沢林道では、テングコウモリ1個体、コテングコウモリ3個体、ヒメホオヒゲコウモリ11個体、計15個体を確認した。

沼山峠では、モリアブラコウモリ計2個体を確認した。

田代山登山口では捕獲できなかった。

表2. コウモリ確認種

種名	捕獲調査					死体拾得		
	オス	メス	雌雄不明	合計	地点数/7	オス	雌雄不明	合計
キクガシラコウモリ			1	1	1			
クビワコウモリ		1		1	1			
テングコウモリ	1	1		2	2			
コテングコウモリ	4	3		7	3			
ヒメホオヒゲコウモリ	6	8		14	2			
モリアブラコウモリ	3	1		4	3	1		1
二ホンウサギコウモリ		2		2	2			
ヒナコウモリ	2	1		3	2		14	14
				34				15

考察

今回の捕獲調査の結果の確認された個体数が多い順から、ヒメホオヒゲコウモリ、コテングコウモリ、モリアブラコウモリであった。上位2種は安井ほか(2022)と同様の結果となり、尾瀬におけるコウモリ相を構成する主要な種と考えられた。また、今回キクガシラコウモリを除く7種でメス個体が確認されたことから、これらの種はこの地域で繁殖している可能性が考えられた。特にモリアブラコウモリは安井ほか(2022)で初めて福島県で確認され、今回メス個体(図4)が福島県で初めて確認された。今後は、モリアブラコウモリの繁殖個体や当歳獣について注意深く調査していきたい。

なお、聞き取り調査で毎年山小屋の戸袋に毎年数10頭のコウモリが確認されていることがわかり、この戸袋で繁殖をしているかどうか調査対象としていきたい。

おわりに

今後は引き続きコヤマコウモリの再確認を含めコウモリ相を調査していくとともに、標識された個体の追跡調査を行っていきたい。

謝辞

モリアブラコウモリの同定には安井さち子氏にご助言をいただきました。現地調査には、南会津農林事務所の高田真太郎氏、FRSコーポレーションの株式会社の石井健太氏、福島大学共生システム理工学類学生の星笙太氏、東北大学大学院生命科学研究所大学院生のリダ・サンチェス氏、岩崎千尋氏にご協力いただきました。聞き取り調査では、尾瀬沼ビジターセンターの職員、尾瀬湖畔長蔵小屋の小林直樹氏をはじめ職員の方々に貴重な情報をいただきました。厚く御礼申し上げます。

引用文献

岩崎雄輔. 2020. 福島県尾瀬地域におけるコウモリ類(2019年調査結果). 尾瀬の保護と復元. (34): 1-2.

安井さち子・河合久仁子・佐野舞織・佐藤顕義・勝田節子・佐々木尚子・大沢夕志・大沢啓子・牧貴大. 2022. 尾瀬のコウモリ類: 2017年～2019年の調査結果より. 低温科学. (80): 453-464.



図2. 使用したハープトラップ



図3 a, b. 山小屋で見つかったヒナコウモリの死亡個体



図4. モリアブラコウモリ (メス個体)